



特集

越前町の公共交通を考える

現在、町内の公共交通機関は、**福鉄バス・京福バスが運行する「乗合バス」と町が運行する「福祉バス」があります。**

乗合バスは、鉄道路線の「鯖浦線」の廃線（昭和47年 織田～西田中間、昭和48年 西田中～水落間が廃線）以降、町民の通勤・通学などを支える足として長年にわたりその役割を果たしてきました。しかしながら、自家用車の普及や少子化に伴う利用客の減少により、どの路線も赤字となり、町においても年間約2、000万円もの補助を行っています。このようなことから、乗合バスの運行本数も以前に比べ相当少なくなってきました。特に、昨年6月には直通で福井方面に乗り入っていた福鉄バスの「福浦線」が廃線となり、一部の地域においては、バス路線が皆無に近い状態になるなど、利用客にとっては大変不便な状況となっています。

新町のコミュニティバスが運行するまでの間は旧町村のままで運行するとされていますが、地区ごとに運行内容に差があったり、運転のできない高齢者などにとっては、同じ町にいながら利用したい公共施設があっても利用できないことなどが問題となっています。

●**一昨年**、丹生郡町村合併協議会が行った住民アンケートにおいても、前述のようなことを反映し、「路線バスの維持・充実」や「交通の利便性の向上」が合併後の進めべき施策の第一番目にあげられるなど、公共交通に対する町民の関心や要望は非常に高くなっています。

公共交通機関は、子どもや高齢者など自動車を持っていない人にとっては、欠くことのできない交通手段です。また、高齢化が一段と進む中、高齢者による交通事故の防止や、排気ガスの削減などによる地球環境の保全、観光資源を活かした魅力あるまちづくりなど、その社会的意義はますます大きくなっています。普段から自家用車を利用している人も、何らかの理由で使えなくなった時、地域に多様な交通手段があれば安心です。

町では、越前町地域交通活性化検討委員会（委員長 浅沼美忠氏（福井県立大学経済学部助教授））を設置し、町民が安心して生活できる公共交通のあり方について、協議・検討を行っています。

現在、委員会では、町内における移動手段としてのコミュニティバスなどを導入することにより、公共交通の活性化や公共交通機関の抱える諸問題が解決できないかの検討を進めています。

福祉バスについては、合併協議会の協定に基づき、

と、約4割の住民が「公共交通不便地域」（※1）または「公共交通空白地域」（※2）に住んでおり、高齢化が進行するなかで高齢者などの交通弱者の「足」の確保を図ることが課題となっています。

※1 バスが運行しているものの、運行本数が1時間に1本未満の地域
※2 バス停から300メートル以上離れた地域

乗合バスの現状

京福バス、福鉄バスの県内輸送人員をみると、いずれも年々減少し続け、平成12年には、平成2年の約半数となっています。

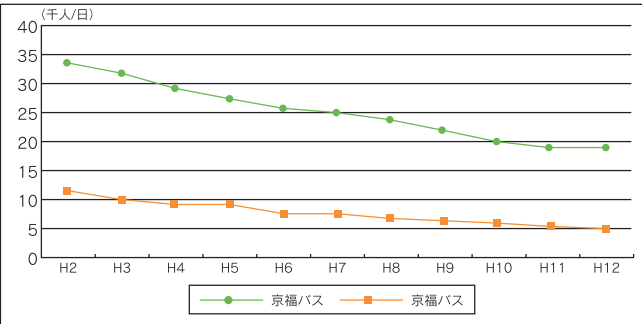
町内では、京福バス3路線、福鉄バス5路線が運行されています。神明駅（鯖江市）と町内4地区をつなぐ路線（西

田中～榎津～織田～梅浦～米ノ間）では1日10便以上の運行が確保されていますが、当該路線以外の地域では、運行本数が半分以下で、サービス水準に差があります。

町内のバス利用者（乗降者）数は、京福バス

田中～榎津～織田～梅浦～米ノ間）では1日10便以上の運行が確保されていますが、当該路線以外の地域では、運行本数が半分以下で、サービス水準に差があります。

1日平均輸送人員（福井県内）の推移

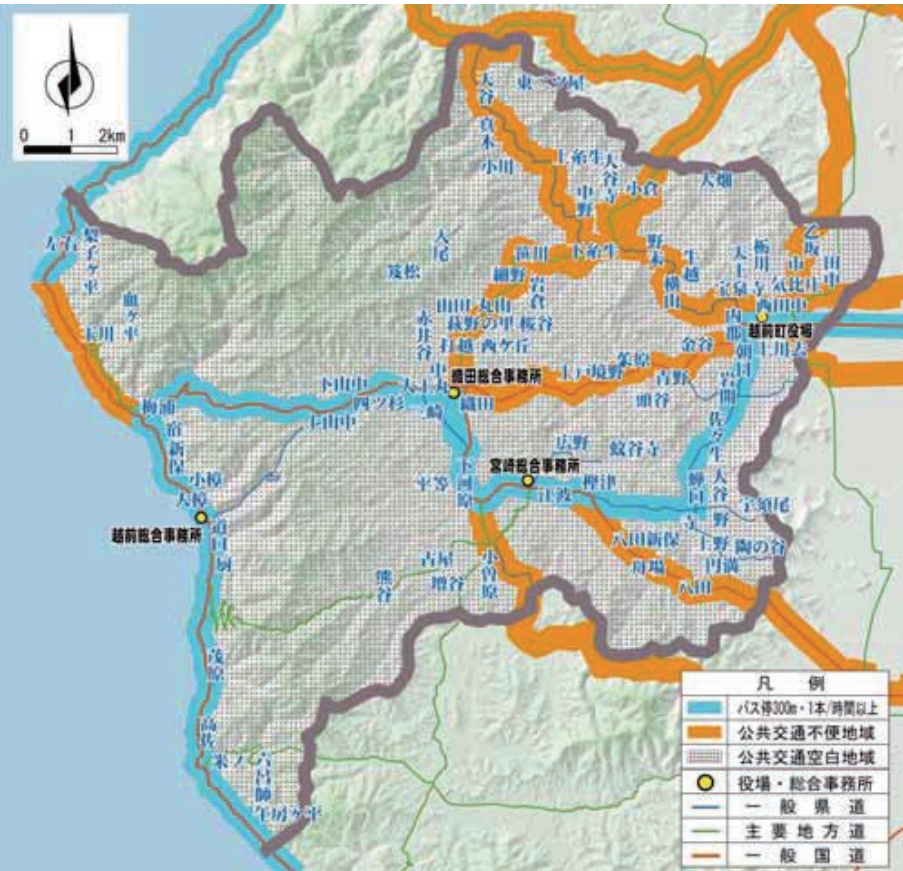


資料：新世紀ふくい生活交通ビジョン（H15.3）

1日の町内乗降人員（上位5バス停）

京福バス		福鉄バス	
西田中	21人	織田	42人
内郡	15人	西田中	38人
織田	11人	朝日	36人
乙坂	7人	小樟	22人
気比庄 他3	6人	大樟	19人

資料：京福バス、福鉄バス



H17.7.1現在

区分	バス停300m以内 1本/時以上運行	公共交通不便地域	公共交通空白地域	合計
総人口	14,241 (57%)	7,761 (31%)	3,093 (12%)	25,095(100%)
4歳以下	525 (52%)	336 (33%)	142 (14%)	1,003(100%)
5～19歳	2,070 (53%)	1,306 (33%)	536 (14%)	3,912(100%)
20～64歳	7,906 (57%)	4,405 (31%)	1,676 (12%)	13,987(100%)
65歳以上	3,740 (60%)	1,714 (28%)	739 (12%)	6,193(100%)